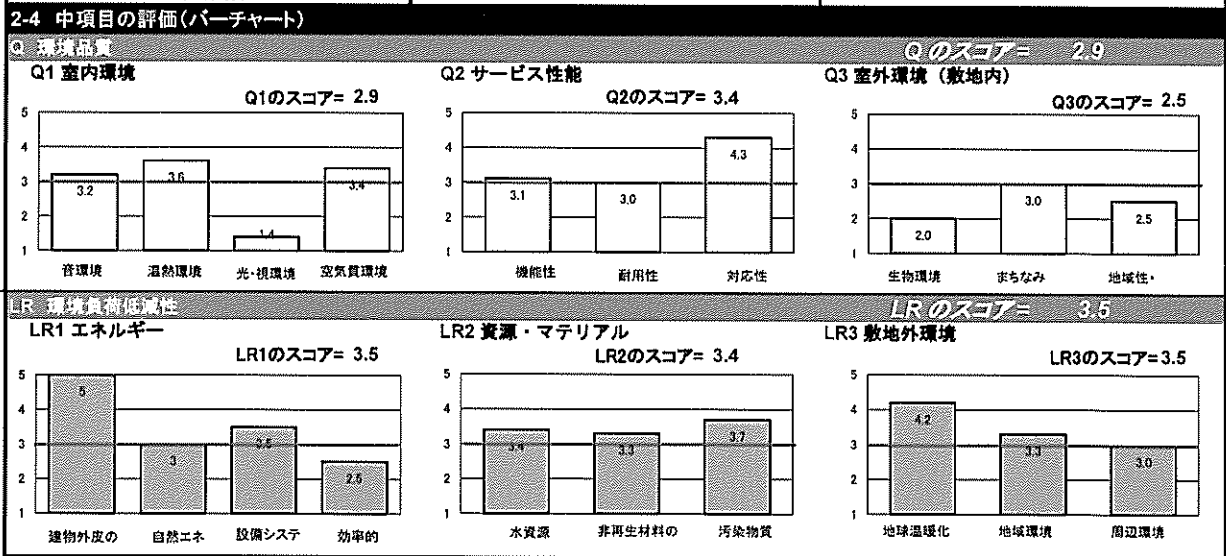
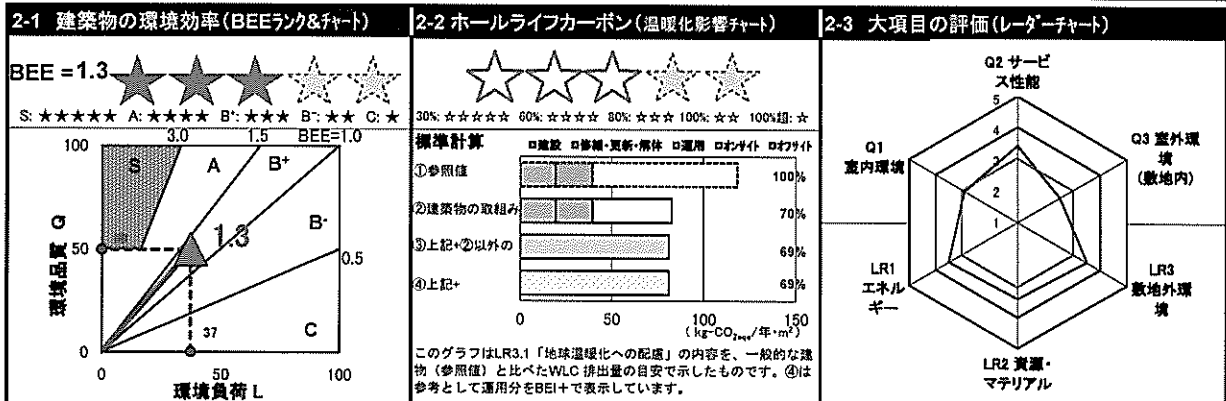
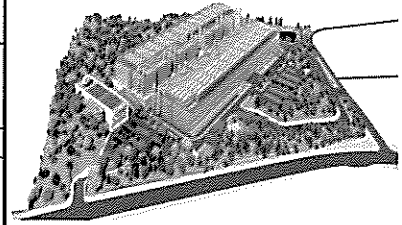


CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カゴヤ多々羅キャンパス(申請建物)	階数	地上3F
建設地	京都府京田辺市多々羅西平川原39-16の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域、第二種住居地域・防火地域指定なし	平均居住人員	302 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年3月30日
敷地面積	34,448 m ²	作成者	近藤 亮
建築面積	7,587 m ²	確認日	2026年4月7日
延床面積	22,697 m ²	確認者	北川 貞大



3 設計上の配慮事項		
その他 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。 窓システムSC: 0.09、U=2.63(W/m2K)、外壁その他: U=0.55(W/m2K) 事務室に換気量が30m3/h・人を超えることを確保します。	Q2 サービス性能 事務室の天井高2.7m以上。 耐震クラスA。 階高:3.9m以上。 床荷重: 15000N/m ²	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI=0.58。 BEI=0.53。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 タイルカーペット、断熱材。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO2排出率が69%。 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される